

Voice from 3.11






1年半の取組み

2020.10~2022.2





Voice from 3.11 実行委員会

-  2020年秋、Voicefrom3.11実行委員会設置。
-  震災から10年。被災者、避難者、支援者、それぞれがどんな思いで10年を迎えようとしているのか。
-  その思いを共有できる取組みを検討
-  新型コロナウイルスの感染拡大。様々な行事が中止に。
-  感染防止に配慮した形で4つの取組みを実施
 - ことばの集い みんなの集い（それぞれの集い）
 - つながりの集い わたしたちの宣言



ことばの集い

274

- 寄せられた「ことば」
- 被災された方、支援された方、東日本大震災に想いを寄せて下さった多くの方から投稿があった。
- ことばは全てウェブサイトで公開した。

VOICE from 3.11

知ること生まれる思いがある

とりちゃん 50代 女性
 ・震災時居住地：神奈川県海老名市
 ・現居住地：神奈川県海老名市

VOICE from 3.11

皆様へ

渡邊明子 40代 女性
 ・震災時居住地：千葉県
 ・現居住地：千葉県鎌ケ谷市

岩手 宮城 福島 広域避難（原発事故を原因とし福島及び福島以外から広域に避難されている方） 地震 津波 原発事故

VOICE from 3.11

ボランティア活動を通じて

木村 香彦 50代 男性
 ・震災時居住地：東京都目黒区
 ・現居住地：東京都目黒区

VOICE from 3.11

知る支援・伝える支援・食べる応援

RedBear 50代 女性
 ・震災時居住地：千葉県柏市
 ・現居住地：東京都江東区

宮城 福島 津波

VOICE from 3.11

村への関心

K.Y. 30代 男性
 郡飯館村

VOICE from 3.11

つらいことも多かったが楽しいこともあった

匿名希望 70代 女性
 ・震災時居住地：福島県双葉郡富岡町
 ・現居住地：福島県郡山市

何も気にしていないといえ、嘘になる

鈴木健太 40代 男性
 震災時居住地：福島県郡山市
 現居住地：福島県郡山市
 タグ：福島 原発事故

自分の人生を生

後藤俊太 20代 男性
 震災時居住地：宮城県東松島市
 現居住地：東京都江東区
 タグ：宮城

趣味を生きがいに、楽しく生きる

糟谷節子 80代～ 女性
 震災時居住地：宮城県宮城郡七ヶ浜町
 現居住地：宮城県宮城郡七ヶ浜町
 タグ：宮城 津波

震災前までお店をやっていました。道路の向かい側は、漁船が停泊する海。あの日は、私はチリ地震の津波を経験しているのに、地震が来たら津波が来ると思い、前日に通院してもらったばかりの薬と通帳や現金などまとめておいたものを持って、

震災を自ら体験した。その時、別れは突然くることを知った。やりたいと思ったことは、いつかやろうじゃなく今やらないと後悔すると感じた。

10年前。自分にできることはないかと、駆けつけたボランティアセンター 困って



みんなの集い

- 「ことばの集い」で寄せられたことばをともに噛みしめ、共感し、自らの想いを語り合う集い。
- 2021年2月11日「みんなの集い」、3月18、25日「それぞれの集い」と開催した。
- 「声を上げられない人々」「優しさの連鎖」などの気づきが、これらの集いから生まれた。



地元が好き～それぞれの311～

それぞれの311がある。
それぞれの9年間がある。

震災時は中学2年生。
もどかしさは当時からなにも変わらない。

これまでたくさんの方が積み上げてきた土台があって、
いまその上で、ずっと走り続けてきた大人の人達と共に活動させてもらっていることに
感謝の気持ちを忘れないようにしたい。

受け入れてくれる地元の大人の人のありがたさを感じている。

若者ができることは何か。

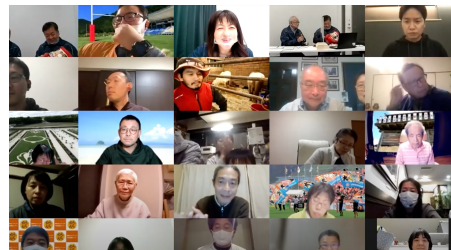
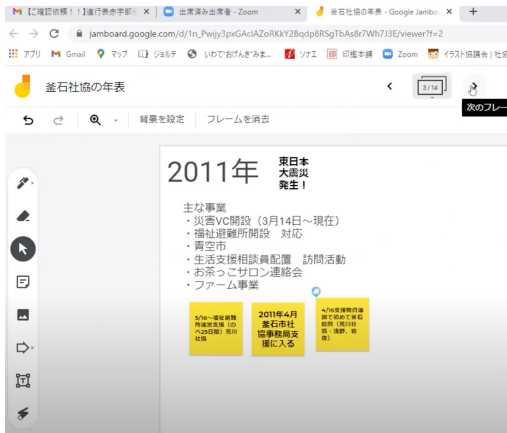
地元が好きだという気持ちを大事にしながらこれからも走り続けていきたい。

小松野麻実 20代女性 震災時居住地：岩手県



つながりの集い

- 震災で生まれた/再認識したそれぞれの地域での「つながり」を見つめなおし、被災者や支援者の「声」をあらためて大事にしていこうという取り組み。
- 岩手県 宮古市・釜石市・陸前高田市、宮城県南三陸町(映像作成)・七ヶ浜町、福島県いわき市・富岡町、東京都(広域避難)で実施した。





ことばから紡いだ わたしたちの宣言

- Voice from 3.11に寄せられた多くの「ことば」と、集いで語られた「声」から、わたしたちは「気づき」を得た。
- わたしたちは、その「ことば・声・気づき」を多くの方と分かち合い、大切にしていって、一人ひとりの行動につながることを願い、7つの宣言をまとめた。

東日本大震災の発災から10年を迎えるにあたり、被災された方、避難されている方、ボランティアや支援に関わってきた方が、「今」どのような思いを持っているのかを知る機会として「ことば」を集め、広く発信してきました。本書は、寄せられた多くの「ことば」を一つ一つ噛み砕きながら、私たちが気づかされたこと、大切にしたいこと、考え続けたいことをまとめたものです。「ことば」と「宣言」が東日本大震災や、これまで/これからの災害に活かされることを望みます。また、「ことば」や「宣言」を読まれたみなさまが他者の思いや考えについて、何かを考える機会になれば嬉しく思います。



Voice from 3.11 ことばから紡いだ わたしたちの宣言

あの日のこと、あの日からの思いを忘れない

Voice from 3.11の「ことばの集い」「みんなの集い」「それぞれの集い」「つながりの集い」で集まった、語られた「ことば」。あの日の悲しみ、あの日からの苦しみ、今までの感謝…等、多くの思いが詰まっている。被災していても、被災していないなくても、そのいずれもが忘れられない、忘れてはいけないもの。わたしたちはその思いを忘れない。

声なき声に耳を傾け続ける

10年たって初めて震災に関する気持ちを表した声が多く届いた。「心に空いてしまった穴をどうしたら埋められるか」「どうしたら防げたのか」、失われたものは、戻ることがない。今も考え、悩み続け声に出せない方もいる。届けられた声の隙に、形にならない声がある。わたしたちはそんな声にならない声にも耳を傾ける。

これまでの、あの時の、新しい「つながり」を大切にしていこう

震災で気づかされた様々な「つながり」。わたしたちは人と土地、地域と関わりながら生きています。震災で失ったつながり、新しくできたつながり。寄せられた言葉からは、さまざまなつながりを大切にして生きていこうとする思いが伝わってきた。わたしたちは一人ではなく、つながりによって誰かに支えられ、誰かを支えている。わたしたちはそのことを大切にしていこう。

若者の言葉を受け止め、ともに歩んでいく

子どもたちは大人が思う以上に家族や友達、地域や世の中の動きを見ていた。その中で感じた「違和感」「虚しさ」、新たに芽生えた「地元への希望」「確かな決意」。大人はこの思いに寄り添ってきただろうか。子ども・若者たちは、これから生きていく主体である。わたしたちは、これらの言葉を受け止め、社会を作る仲間として、ともに歩んでいく。

ひとりの気づきをみんなで分かち合う

東日本大震災は多くの気づきをわたしたちに与えた。その気づきは「いのちや暮らしの尊さ」「つながりの多様さ」「コミュニティの大切さ」…本当に多様であった。それは必ずしもポジティブなものだけではないかもしれない。ただ、わたしたちが得たその気づきを一人の気づきに留めず、より多くの方と分かち合い、ともに何かを考える機会にしていこう。

原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける

東日本大震災では、地震、津波災害に加え、原発事故を経験した。生まれ育った故郷や生活の場から離れての避難生活を続けられる人や、避難生活から故郷に戻られる人など、選択はそれぞれであり、選択できない人もいる。わたしたちはこの出来事を受け止め、個々の選択を尊重し、原発事故がもたらした悲しみや苦しみに向きあい続ける。

教訓を次の災害に必ず活かしていく

東日本大震災では、多くの「いのち」が奪われ「くらし」壊された。そしてこれらを礎にした教訓が残されている。南海トラフの巨大地震、首都直下地震、気候変動による大規模風水害、噴火、「災害大国・日本」には、想定されている災害は数多くある。これらの災害にその教訓を必ず活かしていく。

2022年2月11日

Voice from 3.11 実行委員会
 山崎華貴子/福田俊雄(東京災害ボランティアネットワーク) 栗田輝之/杉村和樹/津賀重中/金子和也/高田愛/三浦博一/北村賢章(東日本大震災支援全国ネットワーク) 藤原健(NPO 法いいて連携センター) 木村正樹(一般社団法人みやぎ復興センター) 天野和也/津口明雄(一般社団法人 ぶくし正瀬復興センター) 市村康志(NPO 法人とみおが子ども未来ネットワーク) 藤野千穂(3.11 メモリアルネットワーク) 関口宏樹(NPO 法人セイエ) 尾崎剛(NPO 法人ジャパン・プラットフォーム) 浜田ゆう(NPO 法人レスキューネットワーク) 大塚誠/福田健治/高田千亜(SAFLAN(福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク)) 加納佳一/品田利恵(広域圏教育支援連絡会) 東京/東京ボランティア・市民活動センター) 山根一樹(公益社団法人 日本YMCA関東) 池本健博(公益社団法人 コム(一)ホールディングス) 岡部謙一郎(社会福祉法人中央共同福祉会) 野田高宏(日本生活者協同組合連合会) 岩田和典(日本赤十字社) 北野一人(公益ボランティアの輪) 藤原健(NPO 法人日本NPOセンター) 明城敏也(NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク) 所澤新一郎